

# 5月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和4年5月末現在〕

令和4年6月10日  
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、全てで改善した。

業種別では、製造業は「収益状況」は悪化した、「景況」、「売上高」は改善した。非製造業は「景況」、「収益状況」、「売上高」の全てで改善した。

3年ぶりの移動制限なしのゴールデンウィークとなり、人出が増加したこと等から、非製造業の景況と売上高が大きく改善し、全体の数値を押し上げた。しかし、幅広い業界で燃料や資材等の価格高騰の影響を受けており、今後の収益悪化を懸念する状況は続いている。

## 景況DI

製造業は、前月比3.8ポイント改善の▲38.5ポイント、非製造業は、前月比16.6ポイント改善の▲16.7ポイント、全体では、前月比10.0ポイント改善の▲28.0ポイントとなった。

## 売上高DI

製造業は、前月比3.9ポイント改善の▲19.2ポイント、非製造業は、前月比16.6ポイント改善の▲4.2ポイント、全体では、前月比10.0ポイント改善の▲12.0ポイントとなった。

## 収益状況DI

製造業は、前月比3.8ポイント悪化の▲42.3ポイント、非製造業は、前月比8.3ポイント改善の▲25.0ポイント、全体では、前月比2.0ポイント改善の▲34.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製 造 業	学校給食パン	新型コロナウイルス感染者も今月より落ち着き、学校給食も通常に戻ったが、先月から副材料等の値上げが後を絶たない。しかし、我が国はモノの値段が上がりにくい国であり、先進国でも特異な国である。国は2025年までに全国平均で時給1,000円を目標としているが、中小企業、また学校給食を担っている我々にとっては無理難題だ。	
	味噌	原材料、資材、その他諸経費の値上がりが続いている。	
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県4月の清酒課税移出数量は、前年同月比103.9%であった。本格焼酎についても、前年同月比89.2%であった。茨城の新型コロナウイルス感染者はまだ多く、飲み会もコロナ禍前と比べると全然戻っていない。清酒が前年同月比103.9%であってもコロナ禍前の3年前に比べると74%であり、かなり厳しい状況が続いている。清酒の輸出については、地域や企業間で温度差があるものの、コロナ禍で国内マーケットが不安定の中、輸出に注力し、令和4年3月の前年同月比輸出数量(全国ベース)は、101.5%であった。100%は超えているが伸び率は鈍化し、ウクライナ危機による世界経済の悪化が懸念される。 ○県内当業界について まん延防止等重点措置は解除されたが、外食は依然自粛ムードである。日本酒の主たる消費者である中高年が用心して外食や飲み会を控えていることが大きい。家飲みでの消費拡大も視野に入れて営業していく必要性がある。地酒の知名度アップと高品質さを消費者に認識してもらう等、Withコロナは企画力の勝負と考える。 5月25日に発表になった全国新酒鑑評会で茨城の酒蔵7蔵が金賞を受賞し、南部杜氏自醸清酒鑑評会において全国115蔵中純米酒部門で森島酒造が第1位を獲得した。 茨城の清酒のレベルの高さを情宣して、地元の皆様に飲んでもらうよう働きかけたい。	
	納豆	一般消費者向けの納豆を主力としているメーカーは、ほぼ先月同様の状況が続いている。一方、土産品向け納豆を主力としているメーカーは先月のまん延防止等重点措置解除とゴールデンウィークの需要増のダブルメリットにより前年同月比で売上を伸ばした。但し、前年の新型コロナウイルス感染症の全国的な蔓延により、県下で感染拡大市町村の範囲が段々と拡大していく過程での、極端に売上が落ち込んだデータとの比較であり、相当の回復が見られるとは言え、コロナ禍前の水準には届かなかった。更に、業界全体の懸念としては、先月と同様にウクライナ問題や円安に加えて、中国のロックダウンによるグローバルサプライチェーンの停滞などによる原材料価格上昇の懸念や流通コストの増大など、原材料価格の高騰を招来する様々な要因の増加と深刻化による収益悪化の可能性が挙げられる。	
	菓子	新型コロナウイルスによる影響は落ち着いてきたが、ロシアによるウクライナ侵攻や円高による原料不足・材料高がある。また、物価高により国民の購買力が落ちている。商品価格を上げざるを得ないが、売上は減少である。	
	漬物	世の中、値上げラッシュが続く中、漬物は副菜であるため値上げができない状況である。物流費、資材、添加物等の値上げが、収益の悪化につながっている。さらに、消費者の買い控え等が見られ、いい方向には向いていないのが現状である。	
	繊維工業	袋物	ウクライナの戦争の長期化により、原材料の値上げが続いていて、新規の発注が遅れている。5月は組合員各社とも、受注に苦戦しているようだった。
		衣服	中国のロックダウンの影響で、売上が増加した。中国生産から日本生産に切替わっている。
	木材・木材製品	製材	・製品の動きは、緩やかな荷動きとなったが、先月に引き続き一部の製品の品薄状況となった。 ・輸入材については、構造材の荷動きは順調に推移した。 ・原木については入荷は順調で、価格については小径木は杉・桧とも高値が続いた
		県北地区プレカット	5月の加工坪数は目標の50%であった。材料の入荷は以前よりも改善されたが、見積が決まらずにこのような結果となった。これから先の見積も少なく、今の状況がしばらく続くのか分からない。
		県央地区プレカット	木材品不足の状態は続いており、受注状況は低調である。消耗品等経費は値上げになってきているが、加工賃が上げられないと利益が上がらない。
	紙・紙加工品	段ボール	5月は業績が悪かったと答えた組合員が半分で、半分は前年同月並みであるとの回答だった。材料が4月より値上がりしているが、お客様への販売価格への転嫁が遅れており、収益の悪化を招いている。一刻も早く価格の改定をお願いをしなければならない。
印刷	総合印刷	新型コロナウイルスの衰えがあり、イベント等の開催がリアルで規制のかからないコロナ禍前に戻りつつある。印刷業界にとっても受注の回復を期待しているが、ここ2年半の間に生活様式、社会全体の動きが大きく変わってきており、コロナ禍前に戻るのか今後の不安は大きい。	
窯業・土石製品	陶磁器	春のイベントが終了し、新型コロナウイルスの状況も少し落ち着いているように感じる。この状況が維持されることを願う。	
鉄鋼・金属	鉄鋼	例年5月は連休があり、製造業にとっては売上が落ちる時期である。売上・収益状況については、前年同月並みであった。燃料等の価格は上昇している。全ての金属が値上がりしており、特にニッケルや貴金属等は高値で推移している。工業用薬品価格についても値上がりしている。	
一般機器	生産用機械	対象7組合員(製造会社)の売上状況は前年同月比で1社増加で、6社減少であった。全体増減率は前年同月比60%であった。前月に続き、世界情勢による部材の供給遅延などを要因として、主要取引先からの受注が減少した事などから、全体の売上高は前年同月比で減少となった。(ただし、4月5月とも全体売上高の一昨年同月比では、増加している) 組合員企業では、正社員数は変わらないが、派遣社員数が増加している。	
輸送用機器	県北地区自動車部品	潜在的な受注はあるものの、半導体供給不足が足を引っ張る形である。	

報告者名  
報告年月

茨城県中小企業団体中央会  
令和4年5月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	水産卸	精算所取扱高は前年同月比2.19%増加した。商品単価の上昇の影響で前年同月比では多少増加したものの、厳しい状況が続いている。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、量販店等では家庭用冷凍食品の販売が伸び、業務用食材を上回っている中で単価の上昇が続いており、厳しい状況である。
	セメント卸	袋セメントの出荷袋数は、県南地区の建設工事が活況で増加したが、それ以外の地区は総じて低調に推移。総合的には前年同月と概ね同様の水準に留まった。
小売業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比116.4%、客数は同112%であり、軒並み好調であった。来月販売予定のプレミアム付商品券に期待したい。
	県央地区共同店舗	館全体の既存店と新店の売上(客数)は前年同月比は99%(96%)となり、前年同月よりも悪化した。主要業種では、食品95%(93%)、飲食101%(103%)、ファッション107%(110%)であった。各店舗で原価高騰のため、商品の値上げが増えてきている現状である。ゴールデンウィークは売上・客数ともに前年同月同様だった。新型コロナウイルスの感染者が減少してきたの大型連休だったが、期待していた程の結果は残せなかった。
	県南地区共同店舗	天候にも恵まれたゴールデンウィークも、ショッピングセンターとしては、入店客数が少なく各種イベント等を企画したが苦戦した。GW以降も閑散とした状態が続いた。少しずつであるが、苦戦が続いていたフィットネス、リラクゼーション、ゲームコーナー等にお客様が戻りつつある。売上は前年同月比で、全体96.9%、衣料92.5%、文化品77.8%、食料品94.4%、飲食106.4%、サービス94.5%であった。
	家電	売上高はほぼ前年同月並み、販促面は本格的な夏場を迎える前に各家庭で早期のエアコン試運転を行うよう呼びかけをお願いしている。また、周知徹底を図るため、ポスター等を配布している。新型コロナウイルスの影響により在宅時間が増えており、併せて、梅雨対策で空調商品(エアコン、空気清浄機、除湿機等)を早めに提案している。
	燃料小売	5月の連休については、前年に比べて人の移動が増え、燃料の需要も増加した。ただし、コロナ禍前には戻っておらず、原油価格は世界情勢の影響により高値が続いており、資金繰りには不安が残る。また、今後新型コロナウイルスの感染者数が増えないことに期待したい。
	中古自動車	販売価格は前年同月比97.7%と若干低下したものの、販売台数が同122.7%と大幅に上昇したため、売上高も同119.8%と大きく増加した。ただし、コロナ禍の混乱による中古車流通市場のタマ不足(在庫不足)の影響で仕入価格の高騰が続いており、一刻も早い新車製造の回復が期待される。
	食料品	5月についても来店客数は減少したが、1人当たりの買い上げ金額はアップという現象が続いている。5月は青果物が相場高騰の煽りを受けて前年同月比で販売点数が80%台に落込み、売上高も90%台となった。しかし、総菜部門・パン部門の売上は前年同月比100%と回復傾向にある。今後も当組合員は来店して頂くお客様に、安心・安全な買い物環境のために感染対策を万全に行い、商品を提供し続けていく。
	野菜・果実	5月は前年同月比で野菜果実合計97.3%の取扱高となった。先月に引き続き、玉ねぎやジャガイモ等の高値が続いた。玉ねぎに関しては、6月も高値で推移すると見られ、家計だけでなく食品業全体に影響が続くと思われる。また、3月4月の天候不順により茨城産のメロンの生育が遅れており、水戸市場でも入荷は少なく、組合員が満足に仕入できない状況が続いている。
商店街	筑西	仕入商品及び水道光熱費の高騰が著しく、販売価格を上げると売上が減少してしまう最悪の状況である。我々のような中小企業では、努力と我慢で何とかできる状況ではない。
サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)は、前年同月比で普通車・軽自動車ともに減少となった。普通車の車検台数が減っているが、軽自動車は大きな落込みもなく、どうにか現状の維持がされている。整備に必要な油脂類と機器の高騰により、収益面の悪化が懸念される。
	ホテル・旅館	新型コロナウイルスの感染状況が減少傾向を示していることや、「いば旅あんしん割事業」の対象地域拡大、6月末までの期間延長等により、人流の増加が見られる。県内外からの宿泊者についても増えつつあり、売上高は上昇傾向が見られる。特に、5月はGWやネモフィラの見ごろ期のほか、笠間陶炎祭等のイベントが再開されたことなど、観光には好条件が揃ったことが要因である。引き続き、食材、燃料費、リネン、清掃費等資材の高騰によるコストの増加は、収益をかなり圧迫している。業務は回復基調となっているが、雇用の確保が難しい状況も見られる。

報告者名  
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年5月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
非 製 造 業	建設業	総合	年度開始2か月目のため工事発注はまだ低調。少ない工事の取り合いはまだ続いている。材料価格の値上がりが発注者積算に反映されないものもあり、工事原価が上昇し、収益が減少している。今後の材料価格上昇が続くと思われるため積算価格を値上げしたいところだが、競争が激しくそれもできない。かなり厳しい状況である。
		県北地区管工事	7月からの材料の値上げに対し、組合員への値上げ前の6月中の早期引き取りを奨励しているが、商社やメーカーの一部に在庫不足を理由に出し渋りが見られる。
	運輸業	一軽貨物運送	当月の組合員数は113名、車輛台数は145台で前月と比較して2名の減少、1台の減少であった。また、運送売上高については、前年同月比111.2%と増加であった。全国連合会での当月の組合員数は7,021名、車輛台数8,324台で前月と比較して42名減少、46台減少であった。
		県北地区一般貨物	顧客の出荷物量は、引き続き低調に推移している。燃料価格は政府補助金があっても高値安定し、収益はますます厳しい状況にある。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食の回数増
	納豆	先月同様、雇用調整助成金の特例措置は明確に雇用維持のみならず、副次的に生産体制の維持にも奏効しているので今後とも維持してほしい。ただ懸念されるのは現在のコロナ禍の回復途上において、中小企業の10/10助成対象となる業況特例の30%以上減少と言う条件が、特に長期にわたって観光業に影響を与え続けたコロナ不況により相当に企業体力を削られてきた土産品を主力とした中小メーカーにとってはタイトすぎるという事である。なぜならば、30%未満程度の減少でも、9/10助成となった場合の差額1/10を負担する余力は、殆どの中小メーカーには既に無いからである。結果9/10助成分しか支給できない場合は、元より賃金水準の低い傾向にある中小メーカーの労働者にとっては労働条件の悪化を意味しており、当然モチベーションの低下を招来することが懸念され、結果、ネガティブな形での雇用の流動化による練度の低下や、製品のクオリティの低下など中小メーカーにとって大手との競争力の更なる低下が懸念され、労使ともに致命的であるので、業況特例の条件の大幅な緩和が期待される。もう一つの地域特例は時短要請の対象外である土産品業界は条件から外れるが、時短要請による人流の抑制の甚大な影響を被ってきた観光業に近接する土産品業界は、飲食業に劣らぬ悪影響を受け続けており、業況特例の対象を単に時短要請対象者に区切るのではなく、土産品業界など時短要請による影響を被る範囲を実質的に考慮されることを期待する。また、土産品業界は長期的なコロナ禍により、多くの中小メーカーが内部留保の取り崩しや、資金繰りの悪化に苦しめられており、その間、利子補給制度など様々な融資制度上の支援はあるものの、そのような財務面での支援のみでは既に限界を訴える声も強くなってきている。それにもかかわらず、時短要請の対象ではないので同協力金の支給はなく、結果、時短要請に伴う人流抑制の不利益のみ享受し、それに対する補償がない状況が続いてきたとの不満が強くある。そのような中、今回の事業復活支援金は期待されたことではあるが、土産品業界と言う飲食業に劣らぬコロナ禍を被ってきた業界としては不十分であるとの思いが強くあるので、土産品業界に対するこれまでの時短要請に起因して生じた不利益に対する補償としての更なる手厚い支援金を期待したい。また今後の振興策として、県民割、ブロック割や、特に以前のGOTOトラベルなどの制度は土産品業界にとって有効であったので、感染状況との兼ね合いもあるだろうが可能な限り期間も含めて拡大し、その間のスタビライザーとして支援金等を有機的に組み合わせた施策を期待したい。但し当初のGOTOトラベルに比して、現在のブロック割は同ブロック内でも自治体により方法が異なってしまう事は過度期の措置としてはやむを得ないものがあるだろうが、感染状況による制限下での観光事業振興策として今後も見据えて取り組むのであれば、少なくともブロックごとには手法を統一してほしい。またワクチン検査パッケージを活用する事はコロナ禍の観光振興策の前提としては極めて適切であろうと考えるが、せっかく政府公式のワクチン接種証明書アプリがあるにもかかわらず、相変わらず紙の接種済証を求められることも、何のためのアプリなのか疑問に思わざるを得ない。これも過度期のやむを得ない措置とは思ふものの、今後の改善に期待したい。また原材料や包材等の価格高騰も既に現実のものとなりつつあるので早急な対策が望まれる。
小売業	県央地区共同店舗	協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金、またイベントで活用できる補助金などの情報や事例を教えて欲しい。
	燃料小売	・揮発油税に課税している二重課税の廃止 ・新型コロナウイルス感染症対策となる経済対策等
建設業	総合	材料単価スライドをお願いしたい。(特別な要因により工期内に主要な工事材料の日本国内における価格に著しい変動を生じ、請負代金額が不相当となったときに、請負代金額の変更を請求できる措置)

月次景況調査 5月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	5月	4月	前月比	5月	4月	前月比	5月	4月	前月比
景 況	▲ 28.0	▲ 38.0	10.0	▲ 38.5	▲ 42.3	3.8	▲ 16.7	▲ 33.3	16.6
売 上 高	▲ 12.0	▲ 22.0	10.0	▲ 19.2	▲ 23.1	3.9	▲ 4.2	▲ 20.8	16.6
収 益 状 況	▲ 34.0	▲ 36.0	2.0	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 3.8	▲ 25.0	▲ 33.3	8.3
販 売 価 格	28.0	26.0	2.0	15.4	11.5	3.9	41.7	41.7	0.0
取 引 条 件	▲ 14.0	▲ 18.0	4.0	▲ 15.4	▲ 19.2	3.8	▲ 12.5	▲ 16.7	4.2

# 中小企業月次景況調査(令和4年5月)DI値(前年同月比)

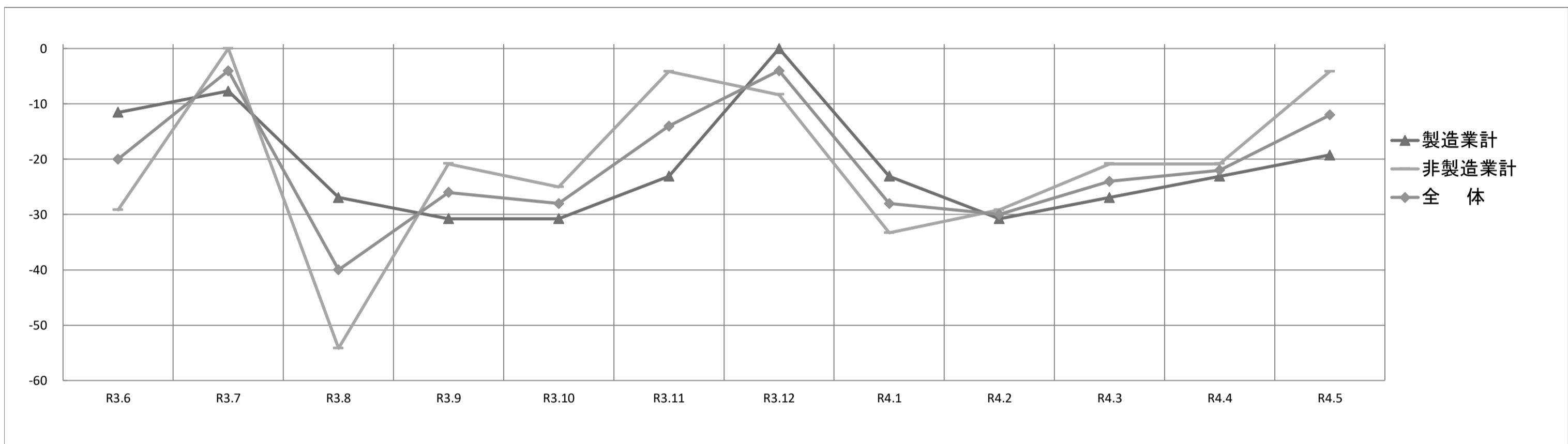
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)														
		増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数							
製造業	食料品	△ 16.7	2	1	3	6	△ 16.7	1	3	2	6	33.3	2	4	0	6	0.0	0	6	0	6	△ 50.0	1	1	4	6	△ 33.3	1	2	3	6	△ 16.7	2	1	3	6	△ 33.3	0	4	2	6	△ 33.3	1	2	3	6
	繊維工業	△ 33.3	1	0	2	3	33.3	1	2	0	3	33.3	1	2	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	1	0	2	3	△ 33.3	1	0	2	3	0.0	1	1	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	1	0	2	3
	木材・木製品	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	△ 20.0	1	2	2	5	△ 20.0	0	4	1	5	40.0	2	3	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 40.0	0	3	2	5	0.0	0	5	0	5	0.0	1	3	1	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 40.0	0	3	2	5
	鉄鋼・金属	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1
	電気機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	0.0	1	1	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
製造業計	△ 19.2	6	9	11	26	0.0	4	18	4	26	15.4	5	20	1	26	△ 15.4	0	22	4	26	△ 42.3	2	11	13	26	△ 23.1	2	16	8	26	△ 15.4	4	14	8	26	△ 7.7	1	22	3	26	△ 38.5	2	12	12	26	
非製造業	卸売業	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	小売業 (商店街含む)	△ 25.0	3	3	6	12	△ 8.3	0	11	1	12	33.3	5	6	1	12	△ 25.0	1	7	4	12	△ 25.0	1	7	4	12	△ 33.3	0	8	4	12	△ 16.7	0	10	2	12	△ 8.3	1	9	2	12					
	サービス業	0.0	1	0	1	2	X				50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	1	0	1	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	50.0	1	1	0	2						
	建設業	20.0	1	4	0	5					60.0	3	2	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	△ 40.0	0	3	2	5	
	運輸業	50.0	1	1	0	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	
	非製造業計	△ 4.2	6	11	7	24					△ 20.0	0	12	3	15	41.7	11	12	1	24	△ 12.5	1	19	4	24	△ 25.0	2	14	8	24	△ 20.8	0	19	5	24	△ 12.5	1	19	4	24	△ 16.7	2	16	6	24	
全体	△ 12.0	12	20	18	50	△ 7.3	4	30	7	41	28.0	16	32	2	50	△ 14.0	1	41	8	50	△ 34.0	4	25	21	50	△ 22.0	2	35	13	50	△ 15.4	4	14	8	26	△ 10.0	2	41	7	50	△ 28.0	4	28	18	50	

## D I 値推移表 (R3. 6月 ~ R4. 5月期)

### 《売上高の推移》

前年同月比	R3. 6	R3. 7	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 16.7
製造業(食料品製造業以外)	5.0	10.0	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	10.0	▲ 10.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0
製造業計	▲ 11.5	▲ 7.7	▲ 26.9	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 23.1	0.0	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 19.2
卸売業	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	33.3	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 41.7	▲ 8.3	▲ 66.7	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 25.0
サービス業	50.0	50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
建設業	▲ 20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	▲ 40.0	20.0
運輸業	0.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
非製造業計	▲ 29.2	0.0	▲ 54.2	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 4.2	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 4.2
全体	▲ 20.0	▲ 4.0	▲ 40.0	▲ 26.0	▲ 28.0	▲ 14.0	▲ 4.0	▲ 28.0	▲ 30.0	▲ 24.0	▲ 22.0	▲ 12.0

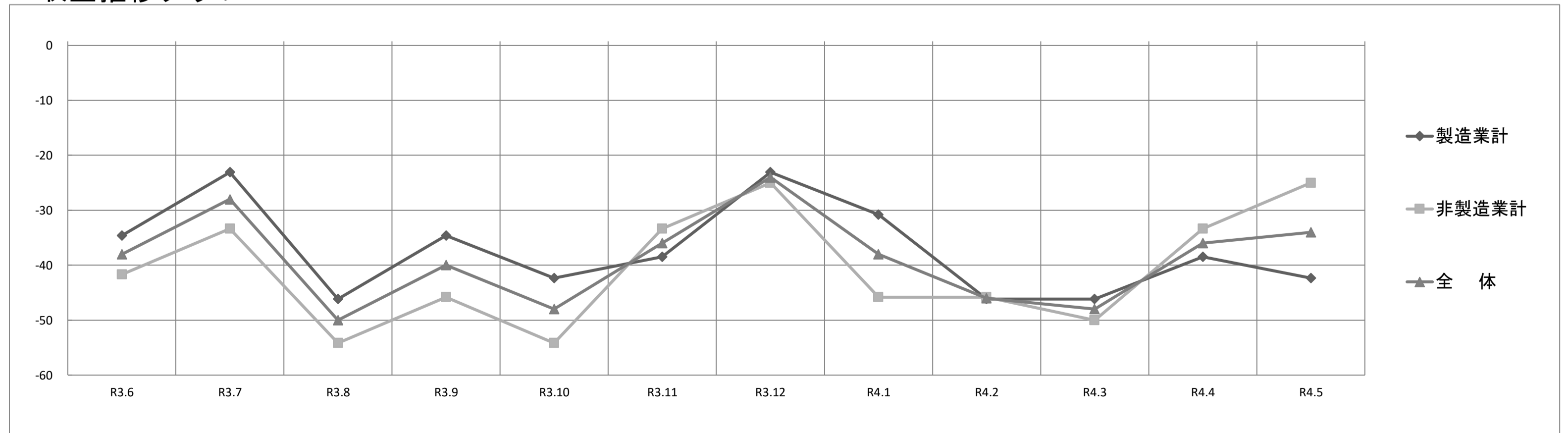
### 《売上高推移グラフ》



### 《収益の推移》

前年同月比	R3. 6	R3. 7	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 40.0
製造業計	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 46.2	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 46.2	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 42.3
卸売業	▲ 66.7	0.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0
サービス業	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0
建設業	▲ 20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 40.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 54.2	▲ 45.8	▲ 54.2	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0
全体	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 36.0	▲ 24.0	▲ 38.0	▲ 46.0	▲ 48.0	▲ 36.0	▲ 34.0

### 《収益推移グラフ》

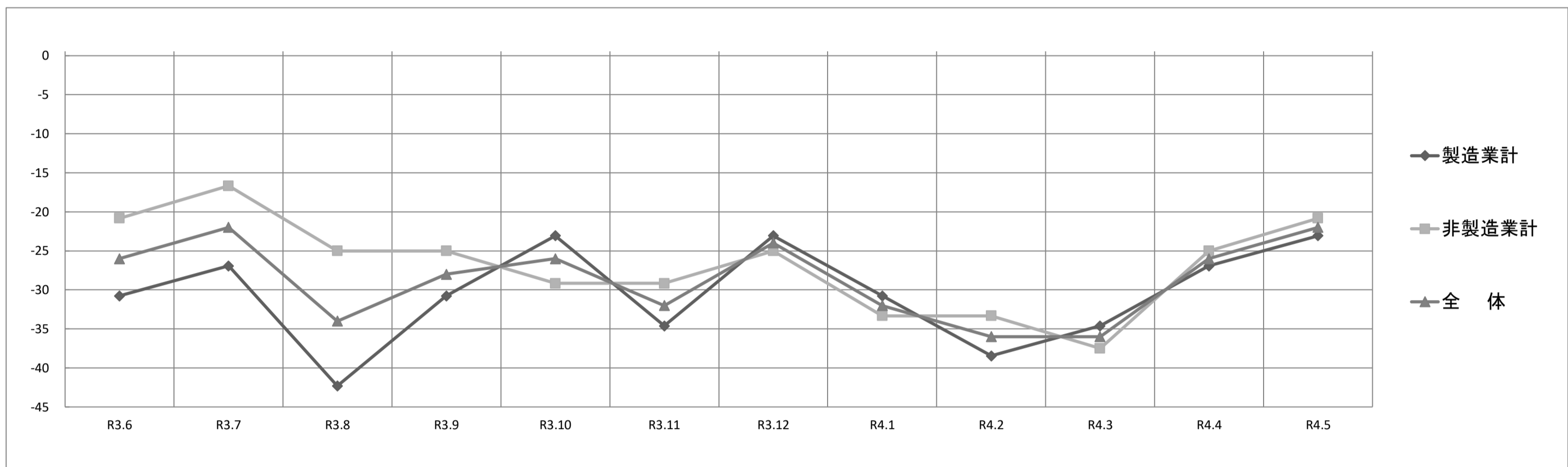


## D I 値推移表 (R3. 6月 ~ R4. 5月期)

### 《資金繰りの推移》

前年同月比	R3. 6	R3. 7	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 33.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 20.0
製造業計	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 26.9	▲ 23.1
卸売業	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 33.3
サービス業	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 20.8
全体	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 34.0	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 32.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 36.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 22.0

### 《資金繰り推移グラフ》



### 《景況の推移》

前年同月比	R3. 6	R3. 7	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 45.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 40.0
製造業計	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 34.6	▲ 11.5	▲ 38.5	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 38.5
卸売業	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 8.3
サービス業	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	50.0
建設業	0.0	▲ 20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 40.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 41.7	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 45.8	▲ 33.3	▲ 16.7
全体	▲ 40.0	▲ 34.0	▲ 44.0	▲ 38.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 14.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 48.0	▲ 38.0	▲ 28.0

### 《景況推移グラフ》

